

乳がん遺児支援の会

電話相談の会代表・岡本さん結成へ

「万一の場合…」母の心配にこたえ

乳がんで母親らを亡くした子どもたちを支援する「プレストキッズ・スマイル」が、12月13日に和歌山市で発足する。患者からの電話相談を受けている「乳がんカウンセリングin和歌山」代表の岡本久子さん(59)(和歌山市和歌浦西1)が発起人で、「万一の場合、残された子どもが心配」という母親の声にこたえた。



カウンセリングin和歌山2008

「プレストキッズ・スマイル」発起人となる岡本さん

岡本さんは、38歳で乳がんの手術を受けた。再発や死への恐怖、心ない発言に傷ついた経験などをきっかけに、乳がん患者の会の発足にかかわった。2001年からは、電話によるカウンセリングを始め、精神対話士の資格も取得。闘病中の母親から「子どもが心配」という声を何度も聞き、実際に亡くなった人もいた。

今年4月、精神対話士を養成、

来月13日 「寄り添っていく」定期交流

認定する団体「メンタルケア協会」(東京都)の集会で、子どもたちの親を亡くした会員から「支えてくれる人がいれば心強い」と聞き、乳がん患者の遺児を支援しようと決意した。

発足後は、定期的に遺児や家族らの交流会を開く予定。岡本さんは「家族には遠慮して言いにくく、第三者にしか話せない悩みもあるはず。今後、何が出るのかを考えながら、子どもたちに寄り添っていきたい」と話している。

発足会は、13日午後1時半から和歌山市の県民文化会館で開かれる。終了後、患者らを対象にした講演会もある。先着30人。申し込みは月、火、金、土曜の午前10時～午後4時に岡本さん(073・445・8873)へ。患者の電話相談は月曜に、同じ番号で受け付けている。